

眞平新報

2026年(令和8年) 1 January

発行者 眞平
http://s-shimpei.com/
f X



元日から籠城 厄介な幕開け

今年の元旦は、家族で初日の挨拶を予定していたが、日の出を見にいき、実家へ 思わぬ事態で一年の幕を開けることになった。

実家への出発直前に子どもが「行かない」と浴室に立てこもったのである。実家ではご馳走を用意して待っている手前、簡単に断るわけにもいかず、とにかく子どもの説得を試みたものの、一時間に及ぶ押し



子どもたっての希望で近くの河原に家族で初日の出を見に行った(東の空に雲がかかっていたので日の出時刻から20分遅れの御来光)



不機嫌に初日の出を待つ子ども(人の多さで寒さで運送に配慮)

今年も無理せず寝正月 意義や意味を求めない

元旦の一悶着を省みて、まず、家族でしっかり寝正月。今年の正月はあまり無理せず、決め込むことにした。



元日の一悶着を省みて、まず、家族でしっかり寝正月。今年の正月はあまり無理せず、決め込むことにした。



今年の御節料理も妻の手作り(御節だけは妻に任せっきり)

ドラマや映画を見たり、去年末に買ったニンテンドースイッチをプレイしたりして、腹が減れば御節料理を食へ、喉が渇けば酒を呑み、実に正月で寝正月に甘んじる(夜ドラ『ひらやすみ』一挙放送を視聴)

駅階段で転落事故 年始早々に諸々痛感

三箇日三日の夜、高校時代の友人との新年会へ向かう途中、駅の階段で歩き馬を歩いていた巨漢の中年に打つ人がいたため、すぐに駅員を呼んで対応を引継いだ。年始早々、歩きスマホの危険性を痛感する事故だったが、新年会ではカラオケは体力であることも同時に痛感した。



おじさんたちが奏でる悲痛な歌声(一時間でヘトヘトになった)

アンビバレントな表明 誠実で複雑な思い



昨年末に妻子不在の束の間に訪れた近隣のモツ焼き屋(塩と脂と辛みの入り混じるアンビバレントな味)

八日は子どもの学校の三期の学期の始業式だった。前日、子どもの担任の先生

から「新学期は気持ちを切り替えて登校してほしいですね」と連絡があった。子どもも新学期のことば意識して「始業式は出たいけど学校が嫌なんだ」というアンビバレントな意見表明を漏らしていた。おそらく、この言葉そのまま彼女の誠実な心境であり複雑な感情なのだと思う。

酒離れと人手不足



昔は新年会で満員御礼だった居酒屋の現在の姿(この座敷席で朝まで呑み明かしたものだ)

毎年恒例となっている高校時代のジャズ同好会の仲間たちとの新年会が、三箇日三日に行われた。今年も毎年使っている居酒屋での宴だったのだが、酒離れや人手不足の影響は深刻で、通常なら予約しないと思われるが、今年も席の半分も埋まっておらず、フロアーの店員さんも二名。うち一名はスポットで入っている方で、なかなかオーダーが通らない。もちろんキッチンの状況も同様、オーダーした料理も酒もなかなか出てこない始末。おかげで会計は安く済んだが、気持ちよくは酔えなかったのである。

寒さに消えた 玄関前の気配



猫の顔ほどの我が家の庭で寛ぐ黒兵衛。(冬毛の猫も可愛い)

我が家周辺を根城にする地域猫が三匹いるのだが、いつもなら、私の帰宅時に

希望なき選挙 — 無策への支持

電撃的に議会の解散を公表した高市内閣の支持率は昨年10月の内閣発足以来、6〜7割の高水準が続いている。実質賞金の伸び悩みや度重なる物価高騰など、生活面では深刻な状況が続く一方で、排外的情態を煽ることで軍

事実を拡大し、そこに付随する不用意な発言が原因で、中国からは輸出規制をかけられ、国内産業をいっただいどの誰が支持しているのか、と疑問に思うのだが、むしろ層ほど高く、個別政策に對しても肯定的な姿勢を示しているというのだから目も当てられない。派のようである。為政者の無策と虚言に疑問を持たず、積極的に擁護する有権者しかいない。はまった希望がない。

眞平御免

明けましておめでとうございます。本年も眞平新報をよろしくお願ひします、などと言いつつ、こちらのコラム兼編集後記「眞平御免」は半年以上の無沙汰をしておりました。更には、去年は縮小版での発行が続き、タフロードサイズの完全版は僅か三号分しか発行できませんでした。発行日も大幅に遅れることが何度かあったので、今年も安定した発行ができるよう努めて参ります、などと言いつつ、やはり現在は、現在、絶賛不登校中の子どもの状況次第というところになるかと思ひますので、温かく見守って頂けると幸いです。▼子どもに関しては、我々夫婦も色々考慮しながら出来る限りの範囲で対応を変化させているため、かつてのような致命的な衝突は少なくなりましたが、その対応が正解かどうかまったく分かりません。▼とにかく、無駄な静い互いが疲弊し、生活が回らなくなることは回避したいという一点を重視して、日々一杯立ち回っているというのが現状なので、明日や明後日のことはもちろん、未来や将来のことなんてまったく考えられない我が家です。

ご意見・ご質問・ご要望、寄稿・投稿・広告掲載(無料)などは各種SNSからお問い合わせ下さい。

今月の視聴覚 記録と記憶

2025年 ひらやすみ 米内山陽子 脚本 全20回 ドラマ

NHK「夜よ」枠で話題になったミミック原作のドラマ。年始に一挙放送されたので家族で視聴。日曜ドラマと言ってしまうほどだったが、その中でも突出した作風。演出や俳優の良さはもちろん、フッドスタイルに飯島愛を挿入したことも惜しい。個人的には、馴染み深い母校が舞台になっていることも善

映画 2022年 139分 エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス ダニエル・シャイナート ダニエル・クワン 監督 人生の波乱や岐路という題材をカンフーとマルチパーズに置き換えて表現。これまで見たことのないユニークな傑作だが、眞摯なメッセージ性にも素直に感動。

をとめよ素晴らしき 人生を得よ 女人短歌のレジスタンス 2025年 瀬戸 夏子 著 書籍 254頁

書籍 2024年 126分 トワイライト・ウォリアーズ 決戦!九龍城砦 ソイ・チェン 監督 キャラクター、ロケーション、ヴィジュアル。すべてが完璧に揃った香港カンフーアクション映画がここに復活。復讐劇という王道の展開に細かいことは気にしない派手なアクション。惜しむらくは、アクションの映像描写が早すぎて、まったくついていけなかった。

2023年 104分 鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎 古賀 豪 監督 映画 妻の魂の鬼太郎誕生前日譚。戦争の影が色濃く残る戦後直後、因習深い村を舞台に語られる物語は横溝正史の「金田一耕助シリーズ」そのまま若手醍醐。アニメ版「墓場鬼太郎」キャラクター造形を期待していたのでこちらも肩透かし。すれ違ひ多めだ。

音楽 1976年 43分19秒 みんな去ってしまった 中島 みゆき 本人同士も良きライバルとして意識してき荒井由実と中島みゆきだが、恥ずかしながら私は中島の方をしっかりと聴いてこなかったため、あらためてここで聴いておこうと思ひ、手始めに手に取った一枚。第一印象としては、本質を歌う荒井と実存を歌う中島と言ったところだろうか。ながら聴きができない曲ばかりだ。